SG JOURNAL Theoria

2023巻頭言

学習塾本来の姿を守るために、ぶれない信念を持って教壇に立つ。

－新たな価値観に適応しつつ「古さ」を強みとして－

白石学習院代表　永田英樹

見えない敵との戦いが続いた混迷の３年間。社会は平常を取り戻す方向へ舵を切りました。
得たものと失ったもの。変わったものと変わらなかったもの。
検証と総括は今後の課題として残っていますが、学び舎に集う生徒がいる限り、
私たちは確かな信念を持って今日も一人ひとりと真摯に向き合っていきます。
白石学習院、４９年目の春。２０２３年度もここから本格始動です。

卒塾生の来訪が示す「塾での濃密な時間」

３月末には満開だった桜も月が変わって咲き終わり、街の向こう側に見える山々に新緑が映える季節になりました。親しい人との別れと新たな人との出会い。やはり４月は各々の生活や人生の節目になる大切な時期だと改めて感じます。毎年のことではありますが、過去を振り返り未来に思いを馳せる、春という季節はそんな機会を私たちに与えてくれているのではないでしょうか。

つい先日、中学受験を終えた後はしばらく顔を見ていなかった生徒が大学合格の報告に来てくれました。６年前の彼女は、実力を出し切れたとは言い難い結果であり、あと一歩で第一志望校に届かなかった一人だったと思うのですが、その後も進学した学校で、そして当院高校部も活用しながらコツコツ努力を継続させたのでしょう、某国立大学の難関学部に見事合格し、薬剤師になるという本人の夢の入口に立てたとのことでした。また別の日のことですが、授業前の時間帯の教室に、明るい髪色やベースボールキャップを被りいわゆる今風の髪型をした若者男子の集団が突然やってきました。子どもたちがいる場ですから一瞬身構えたのですが、マスク越しの顔をよく見れば３年前に高校受験指導をしたクラスの男子たちであり、揃って大学進学の挨拶に来てくれたのです。久しぶりの交歓を楽しみながら、それぞれが広島だけでなく福岡、名古屋の大学へ、これからまさに大人の世界へ旅立つ者が持つ輝きを眩しく感じました。

いつも語っていることなのですが、塾で働く私たちのプライスレスな報酬がまさにこういった時間なのです。私たちは彼ら彼女らの受験期に勉強面で関わっただけでしかない存在なのですが、こうやって成長した姿を見せてもらえる喜びは何ものにも代え難いのです。そして各々の節目にこうして顔を見せにきてくれるということは、もしかしたら教え子たちにとって塾での２年３年の時間はそれなりに濃密だったことの証なのかもしれません。塾は勉強をするところ。当然楽しいことよりもしんどいことのほうが多かったはずですが、彼らが「塾に休まずに通ったことが良かった」と数年間の時間差があっても言ってくれたこと、その言葉が塾の存在の本質なのではないかと思います。

二極化が進む入試と学習塾の存在意義

いつの時代も変わらぬそんな塾の風景がある一方、私たちを取り巻く生活環境はますます厳しくなっています。原油高や戦争、さらに急激な円安に起因した昨年から留まることのない物価高、値上げのラッシュ。特に電気料金の高騰には事業者としても頭を悩まされています。今の状況は経済活況、需要過多による「良いインフレ」ではなくて、コスト高からの原価圧迫による「悪いインフレ」です。各ご家庭でも生活防衛のために様々な支出の見直しを進めていらっしゃると思いますが、それはこれまで聖域とされてきた教育費も無縁ではありません。最近では保護者様から「習い事をひとつ止めた」といった話をよく聞くようになりましたし、実際私たちの現場においても、よりシビアにサービスを評価される傾向が強まってきていることを肌で感じます。私たちは学習環境、指導の質、学習成果、受験結果など、これら全てをさらに向上させ、ご家庭の信任に応えられる指導体制の維持に、今まで以上に努力をしなければならないと強く感じております。

教育分野に目を向けると、文科省が丸１０年ほどかけて学習指導要領の改訂や大学入試制度の見直しを通して進めてきた教育改革がようやく一段落つきました。残す大きなものは現高２の学年から大学入学共通テストに新科目の「情報」が導入されることくらい。ただその数年にわたる大改革の影響で広島県では今年から公立高校の入試選抜制度が大きく変わりましたし、さらに高等学校就学支援金などの教育関連行政の様々な施策によって公立と私立の競争原理が変わり、そこに公立高校の志願倍率二極化現象も加わって、一昔前の進学先選択とは様相が全く異なるものとなりました。中学・高校・大学受験に等しく見られるこの状況を端的に言えば「難しい学校はさらに難しく、易しい学校はさらに易しく」といった傾向が見て取れます。したがって私たち学習塾も、その存在意義を示すためにはより難関の学校への合格・進学を果たさなければなりませんから、変化に対応できる指導力そして情報力が求められていると考えています。

白石学習院生の躍進が際立つ理由

２０２０年から３年間続いたコロナ禍のなかで、実は当院は受験結果を伸長させています。特に中学入試の結果においては連続して過去最高実績を更新している広島学院中を筆頭に、上位校の合格人数や受験者合格率が伸び続けています。ではなぜ相対的に当院生の躍進が目立っているのか、明確な根拠はありませんが、私は「白石学習院が変わらなかったこと」がその要因のひとつであると見ています。非常事態であるウィズコロナの環境下で学習塾のオンライン化がかなり進みました。しかし当院は頑なに教室内での対面指導にこだわり、可能なかぎり登校をお願いしてきました。もちろん当院でも Zoom を駆使してコロナ罹患者や濃厚接触者への自宅学習オンラインサポートにも全力を注いできましたが、塾生・保護者にできる限りの安心、安全をご提供することを前提にしつつ、「学習を止めない」というスローガンを掲げてご家庭のご理解ご協力のもとで出来る限りコロナ前と変わらない教室での指導環境の維持を優先させました。結果的にはそれが学習量の差となって功を奏し、近年の受験実績として表面化したのではないかと思うのです。

時代とともに学び方は進歩します。完全施行された新教育指導要領は「何を、どのように学ぶか」「何ができるようになるか」という生徒側からの視点を重視した内容です。しかし教育改革によって子どもたちの学力水準や社会適応性の全体平均が上がっていくかのような期待感は多分に錯覚を含んでいます。IoT や AI の時代であっても思考力は知識の土台の上に成り立ちます。グローバリゼーションの世界であっても豊かな表現力だけでは生き抜いていけません。競争原理の中で成長や発展を求めるのが学習塾です。私たちは「偏差値を上げる」「より難関の進学先に合格させる」「最終学歴を高める」という同学年の母集団での相対評価の中で生徒たちを指導してきました。確かに古い価値観ですが、時間をかけて磨き上げられてきた大切な育成法でもあります。新たな価値観にアジャストしつつ、ぶれない信念を持って教壇に立つこと。混迷から平常を取り戻しつつある今、この３年間を振り返って思うのは「変わらないでいることの強さ」でした。

我が子の受験が家庭に幸福をもたらす

新年度開講から春期講座を経て、いよいよこの４月から新学年の学習が本格化します。連休明けには今年度最初の模擬試験も実施されますが、まずは日々の安定した学習習慣の形成を第一に、生徒個々がよいスタートを切れるように丁寧に支援してまいります。

特に受験生はこの一年間、様々な困難や課題が出てくるとは思いますが、その壁を乗り越えることこそが成長です。そしてその受験生の最大の味方は保護者の皆様です。どうか勉強を頑張ること、その先にある意味を日々の中で粘り強くポジティブに語っていただきたいと思います。厳しくご苦労の多い一年になりますが、でも「我が子の受験は家庭に幸せを運んできてくれるもの」と信じていただきたいと思います。大丈夫です。受験が終わってご家庭に次の春がやってきたとき、間違いなく家族の絆は深まっているはずですから。

２０２３年４月
白石学習院代表　永田 英樹